

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00568

研究課題名(和文) マレー語地域変種における受動文のミクロ変異研究とコーパス・語彙資源開発

研究課題名(英文) Microvariation in passives and corpus and lexical resource development for regional Malay varieties

研究代表者

野元 裕樹 (Nomoto, Hiroki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：10589245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：マレー語には数多くの地域変種が存在する。本研究では、その中で標準マレー語、サラワク・マレー語(マレーシア)、ブルネイ・マレー語(マレーシア、ブルネイ)を中心に、マレー語地域変種の受動文に見られる特徴を調べ、対照した。サラワク・マレー語では複数ある動作主の表現法の頻度が古典マレー語に類似しているなど、地域変種を見ることで現代標準マレー語の様々な受動文の下位タイプがどのように発達してきたかを明らかにすることができた。本研究では文法研究だけでなく、マレー語地域変種を扱う研究開発・教育に利用可能な言語資源の開発も行った。マレー語変種コーパスを公開し、MALINDO Concから検索できるようにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マレー語の地域変種(方言)の研究は語彙や音の側面からの研究は多いが、文法に関する研究は少ない。本研究はマレー語地域変種の文法、特に受動文に関する言語事実を明らかにした。また、古典マレー語やスンバワ語(インドネシア)も考察の対象とすることで、マレー語やマレー語を含む関連言語の態の体系が歴史的にどのように発達してきたかについて仮説を提案した。言語研究で収集される言語データは多くの場合公開されない。本研究では、データを「マレー語変種コーパス」という形で一般公開した。また、紙時代の言語データのデジタル化・公開も行った。さらに、オンラインの検索システムMALINDO Concから検索できるようにもした。

研究成果の概要(英文)：The Malay language has numerous regional varieties. In this study, we examined and contrasted the features found in passive sentences of regional Malay varieties, focusing on Standard Malay, Sarawak Malay (Malaysia) and Brunei Malay (Malaysia and Brunei) among them. By looking at regional varieties, we were able to clarify how the various passive subtypes in Modern Standard Malay have developed. For instance, the frequency pattern of various ways of expressing passive agents in Sarawak Malay is similar to that in Classical Malay. In addition to grammatical research, this study also developed language resources that can be used for research, development and education dealing with regional Malay varieties. "Korpus Variasi Bahasa Melayu (Corpus of Malay Varieties)" was published and made searchable through MALINDO Conc.

研究分野：言語学

キーワード：マレー語 インドネシア語 態 受動文 言語資源

1. 研究開始当初の背景

マレー語には数多くの地域変種が存在する。標準変種としては、マレーシア、シンガポール、ブルネイの標準マレー語とインドネシアの標準インドネシア語がある。それに加え、これらの国の各地に非標準変種(いわゆる方言)があり、主に話し言葉として用いられている。本研究では、マレー語の2つの標準変種といくつかの非標準変種を対象とし、受動文に関する対照研究を行う(文法研究)。また、マレー語地域変種を扱う研究開発・教育に利用可能な、電子コーパスおよび語彙資源を開発する(言語資源開発)。

(1) 文法研究

マレー語の地域変種間で受動文(=他動詞の動作主が非主語、被動者が主語となる構文)の形式・用法に違いが存在するという事は、先行研究により既に知られている。しかし、その詳細について明確に対照・分析した研究は、管見の限り存在しなかった。

(2) 語彙資源開発

頻度など計量的側面の研究には、一定量の自然発話データが必要である。また、マレー語は、話者人口約3億人の大言語であるものの、それに見合った言語資源が存在しなかった。

2. 研究の目的

(1) 文法研究

本研究では、以下に述べる詳細項目について、地域変種間でどのような変異が存在するのかを調べる。それを通じて、受動文に関して通言語的に可能な変異の範囲、マレー語受動文の通時的变化のプロセス、それらの背後にある一般言語学的なメカニズムの解明を目指す。

マレー語の受動文には、他の多くの言語には見られない、複数の下位タイプが存在する(Nomoto & Kartini 2014)。受動文はまず、動詞に明示的な受動標識が付加されるかどうかにより、di-受動文と裸受動文に分類できる。裸受動文では、明示的な動作主が常に動詞の直前に生起する。di-受動文はさらに、動作主の表現方法により下位分類が可能である。現代標準マレー語では、明示的な動作主が生起しない隠在型、動作主名詞句が動詞の直後に生起するDP型、動作主名詞句が前置詞 oleh「～によって」により導入される oleh 型が存在する。

di-受動文

- 隠在型: Dokumen itu sudah **di-semak** [_____].
- DP型: Dokumen itu sudah **di-semak** [_____ mereka].
- oleh型: Dokumen itu sudah **di-semak** [oleh mereka].
document that already PASS-check by them
「その書類はもう[(彼らによって)]チェックしてある。」

裸受動文

Dokumen itu sudah [mereka] *semak*.

document that already they check

「その書類はもう[彼らが]チェックしている。」

① 下位タイプの有無

上記の下位タイプに関して、地域変種による変異が存在する可能性がある。具体的には、さらに多くの下位タイプを持つ変種や、一部の下位タイプしか持たない変種の存在が考えられる。例えば、古典マレー語の di-受動文には、動作主が動詞直後の3人称代名詞と oleh 前置詞句の2つにより表現される「ハイブリッド型」が存在した(Nomoto 2016)。このタイプは、現代の標準変種では消失している。しかし、このタイプがまだ残っている地域変種があるかもしれない。また、裸受動文の動作主についても、地域変種の間に変異が見られる可能性がある。

② 下位タイプの頻度・使い分け

同じ下位タイプを共有する地域変種間で使用頻度に差がある可能性もある。例えば、di-受動文で動作主を明示する際の通常の実験が DP 型の変種と oleh 型の変種が考えられる。

③ VS 語順

現代の標準マレー語、標準インドネシア語では、受動文の語順は普通、上の例文のようにSVである。しかし、頻度は低いものの、VSの語順が生起することもある。古典マレー語では、

VS 語順が一般的であった。VS 語順が使用される頻度や環境については、複数の地域変種の対照を通じて何らかの規則性が発見できる可能性がある。

(2) 言語資源開発

① コーパス

公開されているコーパスとしては、ライブツィヒ・コーパスコレクションに含まれるサブコーパスが最大のものである。これは書き言葉のコーパスで、内容は新聞記事や Wikipedia などに偏っている。話し言葉のコーパスは、研究代表者が関わって作成した標準マレー語のコーパス「多言語話ことばコーパス(マレーシア語)」が存在する。本研究では、マレー語の地域変種のデータ収集を行い、表記の統一や匿名化など、必要な編集・整形を行い、「マレー語変種コーパス」として公開する。

② 語彙資源

複数の地域変種のデータを電子的に処理しようとするとき、同一項目の変種間での変異を整理した語彙資源が有用である。本研究では、マレー語の地域変種間での同一語の変異形、対応するコロケーション(複単語表現)のリストを作成し、公開する。後者については、マレー語文章解析システム「マレー語チュウ太」でも複単語表現を扱えるようにし、研究成果をマレー語教育の分野にも反映させる。

3. 研究の方法

文法研究は、文献調査、母語話者への聞き取り調査、コーパスを使った調査により行う。言語資源開発のうち、コーパスの構築は、以下の2つの方法により行う。第一に、イラストやテーマを与えて母語話者に語ってもらい、その録音を文字化する。第二に、過去に紙媒体で出版されたマレー語非標準変種の文字資料をデジタル化する。語彙資源は、その過程で発見した表現を個別に整理することにより構築する。

4. 研究成果

(1) 文法研究

① 下位タイプの有無

di-受動文の下位タイプについて、まとめると下の表1のようになる。

表1 マレー語変種における di-受動文の下位タイプ

変種	隠在型	DP型	oleh型	ハイブリッド型
標準マレー語	○	○	○	×
古典マレー語	○	○	○	○
サバ・マレー語	○	○	○	×
サラワク・マレー語	○	○	○	×
ブルネイ・マレー語	○	○	○	×
タンジュンパウ・クリンチ語	×	○	×	×

裸受動文については、上の変種ではすべてで DP 型しか存在しないが、スマトラ島のマレー系言語であるプスマ語では裸受動文にハイブリッド型が存在する。また、関連言語のスンバワ語でも裸受動文のハイブリッド型が可能であるという分析を提案した。下の例文では、動作主が動詞の直前の人称代名詞=ya と ling で導かれる前置詞句の2つの表現によって表されている。

スンバワ語 (Shiohara 2016: 259)

ka=ya=inóm kawa=nan ling nya Amin.

PST=3SG=drink coffee=that by Mr. Amin

「アミンはコーヒーを飲んだ。」

di-受動文と裸受動文の双方に DP 型とハイブリッド型が存在することは、両者の共通性を示すとともに、両者を同一の態構文の下位分類であるとみなす根拠となる。

② 下位タイプの頻度・使い分け

サラワク・マレー語の di-受動文の3つの型の相対的頻度は DP 型が高く、古典マレー語に類似することが分かった。また、サラワク・マレー語とブルネイ・マレー語の裸受動文は、他の多くの変種と異なり、di-受動文のように動作主が動詞の直後に生起することも分かった。さらに、サラワク・マレー語では di-受動文に2人称動作主がしばしば明示的に生起することも発見された。これらの特徴は、di-受動文と裸受動文の連続性やマレー語受動文の過去の姿を反映するものと考えられる。

③ VS 語順

ブルネイ・マレー語は、他の変種に比べて VS 語順の頻度が高く、古典マレー語に最も類似することが分かった。(マレー語変種全体において VS 語順がどのような場合に生じるかについては詳しく調べることができなかった。)

以上①~③より、現代マレー語の様々な受動文の下位タイプについて以下のような発達過程を提案した。

- di-受動文は裸受動文をベースにまず DP 型が存在した。
- その後、DP 型の動作主を重複する oleh 前置詞句が共起し始めた(ハイブリッド型)。
- ハイブリッド型の DP 動作主に無形代名詞 pro が頻出し、oleh 型となった。
- oleh 前置詞句を伴わない隠在型が次第に一般的になった。

(2) 言語資源開発

① コーパス

以下のマレー語変種のデータを「マレー語変種コーパス」の一部として公開した。

- 標準口語マレー語(マレーシア)
- サバ・マレー語(マレーシア)
- サラワク・マレー語(マレーシア)
- ブルネイ・マレー語(マレーシア、ブルネイ)
- 口語ジャカルタインドネシア語(インドネシア)

ブルネイ・マレー語のデータには、Haji Abdul Hamid & Palaniappan (1998)のデータも含まれる。これは、紙媒体で公開されていた言語資料を原著者の承諾を得てデジタル化したものである。上記データはすべて形態情報を付与し、オンライン上のコーパス検索システム MALINDO Conc (<https://malindo.aa-ken.jp/conc/>) から検索できるようにした。他にも他の研究者の言語資源を整備して、MALINDO Conc で検索できるようにした。具体的には、Moeljadi (2014)の口語インドネシア語データと Mohd. Ali(2015)のサラワク・マレー語のデータである。今後もこのような形で他の研究者の協力を得つつ、さまざまなデータを共同で利用できるようにする取り組みを続けていきたい。

② 語彙資源

標準マレー語の複単語表現を整理した。さらに、マレー語文章解析システム「マレー語チュウ太」(<https://malay.chuta.jp>)において、複単語表現を検索できるようにした。(複数のマレー語地域変種における複単語表現の対応リストは作成することができなかった。)

< 引用文献 >

- Haji Abdul Hamid bin Jaludin & Periannan Palaniappan. 1998. *Folklor Kampong Aying: Himpunan Hasil Projek Folklor Kampong Ayer*. Gadong: Jabatan Kesusasteraan Melayu, Fakulti Sastera dan Sains Kemasyarakatan, Universiti Brunei Darussalam.
- Moeljadi, David. 2014. Usage of Indonesian possessive verbal predicates: A statistical analysis based on storytelling survey. *Tokyo University Linguistic Papers* 35: 155–176.
- Mohd. Ali Salim. 2015. *Dialek Melayu Sarawak: Perkataan, Ayat dan Perbualan*. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
- Nomoto, Hiroki. 2016. Passives and clitic doubling: A view from Classical Malay. In Nomoto et al. (2016) pp. 179–193.
- Nomoto, Hiroki & Kartini Abd. Wahab. 2014. Person restriction on passive agents in Malay: Information structure and syntax. In Siaw-Fong Chung & Hiroki Nomoto (eds.) *Current Trends in Malay Linguistics*, 31–50. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies.
- Nomoto, Hiroki, Takuya Miyauchi & Asako Shiohara (eds.) *AFLA 23: The Proceedings of the 23rd Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association*. Canberra: Asia-Pacific Linguistics.
- Shiohara, Asako. 2016. Pseudo-cleft constructions in the Sumbawa Besar dialect of Sumbawa. In Nomoto et al. (2016) pp. 258–272.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 Francis Bond, Hiroki Nomoto, Luis Morgado da Costa, Arthur Bond	4. 巻 1
2. 論文標題 Linking the TUFs Basic Vocabulary to the Open Multilingual Wordnet	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 12th Language Resources and Evaluation Conference (LREC 2020)	6. 最初と最後の頁 3181-3188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 68
2. 論文標題 Passive subtypes in Sarawak Malay	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94897	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野元裕樹, スニサーウィッターバンヤーノン (齋藤), 岡野賢二, トウザ ライン, 南潤珍, スリ・ブ ディ・レスタリ	4. 巻 25
2. 論文標題 代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状? タイ語, ビルマ語, マレー語, インドネシア語, ジャワ語, 朝鮮 語?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/100158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Bare passive agent hierarchy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the Twenty-Seventh Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA)	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅井優介, 北村達也, 川村よし子	4. 巻 13
2. 論文標題 小学生向け教育番組の音声に用いられる語彙の予備調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 甲南大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14990/00003648	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asako Shiohara, Yanti	4. 巻 68
2. 論文標題 Building a semi-parallel corpus of Malay varieties: some preliminary findings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94898	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 川村よし子	4. 巻 24
2. 論文標題 双方向の辞書引きを可能にする学習支援システムの開発と評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6. 最初と最後の頁 319-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 68
2. 論文標題 Passive subtypes in Sarawak Malay	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 139 -158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94897	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Towards genuine stemming and lemmatization in Malay/Indonesian	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語処理学会 第26回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 1033-1036
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野元裕樹、川村よし子	4. 巻 21
2. 論文標題 マレー語学習者を対象にした読解学習支援システムの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 215-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto, David Moeljadi	4. 巻 67
2. 論文標題 Linguistic studies using large annotated corpora: Introduction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94450	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Asako Shiohara, Yuta Sakon, Hiroki Nomoto	4. 巻 67
2. 論文標題 Discourse functions of the two non-active voices in Indonesian: Based on the web corpus data in MALINDO Conc	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic studies of languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 77-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩原朝子、Nawipa Dance	4. 巻 1
2. 論文標題 メエ語テキスト：パンダヌス園にまつわる三つの話	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修 フィールドメソッド メエ語（エカリ語）成果報告書	6. 最初と最後の頁 292-311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/94179	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Asako Shiohara, Anthony Jukes	4. 巻 1
2. 論文標題 Two definite markers in Manado Malay	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Perspectives on information structure in Austronesian languages	6. 最初と最後の頁 117-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.1402571	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Asako Shiohara	4. 巻 65
2. 論文標題 Recent stylistic changes in Indonesian recipes observed in voice selection	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/92900	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八木真生、川村よし子	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 非漢字圏中上級学習者は読解中の辞書使用・不使用の判断をどのように行っているか 辞書引き行動の観察及びインタビューの結果から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川村よし子	4. 巻 22
2. 論文標題 日本語学習者のためのweb辞書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6. 最初と最後の頁 66-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto, Shiro Akasegawa, Asako Shiohara	4. 巻 65
2. 論文標題 Reclassification of the Leipzig Corpora Collection for Malay and Indonesian	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/92899	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto, Kenji Okano, Sunisa Wittayapanyanon, Junta Nomura	4. 巻 1
2. 論文標題 Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFs Asian Language Parallel Corpus (TALPCo)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語処理学会 第25回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 846-849
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 1
2. 論文標題 The development of the English-type passive in Balinese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Wacana: Jurnal Ilmu Pengetahuan Budaya	6. 最初と最後の頁 122-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17510/wacana.v19i1.620	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 17件）

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Aspek nahu dalam penterjemahan Jepun-Melayu
3. 学会等名 Webinar Penterjemahan Antarabangsa (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Bare passive agent hierarchy
3. 学会等名 The 27th annual meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA 27) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Senario pengajaran dan pembelajaran bahasa Melayu di Jepun
3. 学会等名 Forum Antarabangsa Pengajaran dan Pembelajaran Bahasa Melayu (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野元裕樹, 大久保弥, 佐近優太
2. 発表標題 日本語コーパスの談話構造アノテーションに向けた予備的研究
3. 学会等名 第161回日本語学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村達也, 松本侑也, 川村よし子
2. 発表標題 小学生低学年向け教育番組の音声に用いられる語彙の調査
3. 学会等名 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本裕子, 本間妙, 川村よし子, 小森早江子
2. 発表標題 コーパス分析システムの公開と日本語教育・日本語研究への活用
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Asako Shiohara, Yanti
2. 発表標題 Building a semi-parallel corpus of Malay varieties
3. 学会等名 Konferensi Linguistik Tahunan Atma Jaya (KOLITA 18) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Asako Shiohara
2. 発表標題 Satera Jontal, Aksara Lontara yang dipribumikan di Sumbawa
3. 学会等名 Seminar Internasional Aksara Lontaraq (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Pengenbangan sumber bahasa digital dan konsep asas dalam linguistik Melayu/Indonesia
3. 学会等名 Konferensi Linguistik Tahunan Atma Jaya (KOLITA) 17 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Wataru Okubo
2. 発表標題 Persian copulas in focus constructions
3. 学会等名 The Second North American Conference in Iranian Linguistics (NACIL)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Passive subtypes in Malay: Their structures frequencies and diachrony
3. 学会等名 APHASIA and LINGUISTICS network in Malaysia and Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野元裕樹
2. 発表標題 代名詞代用語の意味論
3. 学会等名 第159回日本語学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Passive subtypes in Sarawak Malay
3. 学会等名 The Third International Workshop of "Varieties of Malayic Languages" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Using MALINDO Conc for Malay/Indonesian language classes
3. 学会等名 The Southeast Asian Language Teaching and Learning Symposium (SEALTLs) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Towards genuine stemming and lemmatization in Malay/Indonesian
3. 学会等名 言語処理学会第26回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asako Shiohara, Yanti
2. 発表標題 Capturing emerging Indonesian varieties using a picture-task to elicit semi-spontaneous narratives
3. 学会等名 INLALI (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本田ゆかり、川村よし子
2. 発表標題 読解基本語彙チェッカーの開発
3. 学会等名 日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 双方向の辞書引きを可能にする学習支援システムの開発と評価
3. 学会等名 ヨーロッパ日本語教育シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木真生、川村よし子
2. 発表標題 非漢字圏中上級日本語学習者は文章中の重要語を辞書で調べるか 辞書引き行動の観察及びインタビューの結果から
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asako Shiohara
2. 発表標題 Coding of active references in Malay varieties
3. 学会等名 The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asako Shiohara
2. 発表標題 Coding of active references in Malay varieties
3. 学会等名 The 14th International Conference of Austronesian Linguistics (ICAL14) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金庭久美子、川村よし子
2. 発表標題 慣用表現に対応したやさしい日本語書き換えシステム
3. 学会等名 日本語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野元裕樹、川村よし子
2. 発表標題 マレー語学習者を対象にした読解学習支援システムの開発
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本裕子、川村よし子、小森早江子、本間妙
2. 発表標題 話し言葉や誤用の含まれたテキストに対応可能なコーパス分析システムの開発
3. 学会等名 日本語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八木真生、川村よし子
2. 発表標題 辞書を使用した文章理解過程の分析 非漢字圏中級日本語学習者を対象として
3. 学会等名 CAJLE2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 読解教育および学習支援のための機能表現抽出ツールの開発と運用実験
3. 学会等名 AJE2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 AI時代到来に備えた日本語教師の役割
3. 学会等名 台湾日本語教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 ICT時代に対応した日本語教師の役割
3. 学会等名 早稲田大学連続講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 外国人児童・生徒ための日本語教育
3. 学会等名 言語文化教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 IT時代に対応した日本語教師の役割
3. 学会等名 韓国日語教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Kenji Okano, Sunisa Wittayapanyanon, Junta Nomura
2. 発表標題 Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFS Asian Language Parallel Corpus (TALPCo)
3. 学会等名 言語処理学会第25回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Hannah Choi
2. 発表標題 The apparent lack of a complementizer-trace effect in Indonesian supaya complements
3. 学会等名 The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Shiro Akasegawa, Asako Shiohara
2. 発表標題 Building an open online concordancer for Malay/Indonesian
3. 学会等名 The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野元裕樹、大久保弥
2. 発表標題 ペルシア語の焦点構文におけるコピュラの生起制限
3. 学会等名 第157回日本語学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Faridah Mohamed
2. 発表標題 Factors affecting Japanese university students' choice of their major second foreign languages
3. 学会等名 Asia-Pacific Symposium for the Teaching of Asian Languages, the Eighth CLS International Conference (CLaSIC 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asako Shiohara, Yanti
2. 発表標題 Training for Documenting Minority Languages of Indonesia: Practice, Benefit and Challenges
3. 学会等名 Konferensi Linguistik Tahunan Atma Jaya (KOLITA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 川村よし子, 上田広美, 三修社編集部	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 960
3. 書名 ポータブル日カンボジア英・カンボジア日英辞典	

1. 著者名 野元裕樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Next Publishing Authors Press	5. 総ページ数 190
3. 書名 マレー語の教科書 詳解文法	

1. 著者名 Sonja Riesberg, Asako Shiohara, Atsuko Utsumi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Language Science Press	5. 総ページ数 438
3. 書名 Perspectives on information structure in Austronesian languages	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	塩原 朝子 (Shiohara Asako) (30313274)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	川村 よし子 (Kawamura Yoshiko) (40214704)	東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授 (32402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関